

JR東日本エコロジー推進活動のまとめ

JR東日本は、平成8年3月に、当社の事業と関わりの大きな環境分野において、平成13年度（2001年）を達成年度とした具体的な目標を定め、その進捗状況と共に「JR東日本の環境問題に対する取り組み－現状と課題（平成8年版）」として公表いたしました。

今回の報告では、これらの各環境分野における目標設定後の実績と取り組みの状況についてお知らせいたします。

〔環境管理〕

当社の事業活動によるさまざまな環境影響について全社的に把握を進めました。これらの結果をそれぞれの環境施策に反映し、継続的な改善に努めています。今後は、この仕組みを国際環境規格に準じた環境管理システムへ発展させていきます。また、駅や電車区等の機関に適用できる環境管理システムの構築に着手するとともに、新津車両製作所では平成10年度内のISO14001の認証取得へ向け準備を進めます。

〔エネルギーと二酸化炭素排出〕

当社の最大のエネルギー消費を占める運転用電力については、平成8年度に337両の省エネタイプの車両を投入しました。この結果、運転用電力消費量は、会社全体でも2年連続減少し、平成8年度の運転用エネルギー消費も単位輸送量あたり約4%削減されました(平成6年度比)。引き続き、省エネタイプの電車を投入していきます。

また、自営発電所については、効率化と二酸化炭素排出削減に大きな効果を持つ火力発電設備の更新について平成10年度中の完成に向け工事を進めています。

〔環境汚染・オゾン層破壊物質〕

現在進めている、火力発電設備の更新に際しては、脱窒装置により窒素酸化物の大幅な排出削減を実現し、平成13年度までに40%削減するという目標に近づきました。

このほか、ディーゼル車両エンジンの排気ガス改善、車両用塗料の低有機溶剤化や沿線で使用する除草剤等環境に負荷を与える物質の排出削減に向けた取り組みを実施しています。

また、フロン対策として、平成9年度は4台の大型冷凍機を特定フロンを使用しないタイプに更新しました。さらに、新本社ビル完成にあわせて地域冷暖房を導入することにより旧本社ビル、新宿ビルの大型冷凍機を14台廃止いたしました。今後、さらに特定フロン機器の更新を進めるとともに既存の機器についても漏洩防止や回収再利用に努めていきます。

〔ゼロエミッション〕

駅列車で発生するごみについては、お客様の分別回収へのご協力や上野リサイクルセンターの稼働率の向上に支えられ、リサイクル率が22%（平成6年度は14%）になりました。また秋田及び長野への新幹線の開業にあわせ、あらたに3箇所にごみを分別・リサイクルできる設備を導入いたしました。

水資源については雨水や中水設備の活用で節減に努めています。平成9年に完成した新本社ビルにも中水設備を導入し水資源の使用量を削減することができました。事務用紙については再生紙の利用が91%となりました。今後は、再生紙を使用した切符の開発も進めていきます。

〔グリーンレール（地球環境との調和）〕

平成8年度は各支社毎に14箇所の植樹を実施しました。新入社員や地域の人を含め約3千名の方に鉄道沿線への植樹に参加していただきました。秋田新幹線では1キロにわたり桜の木を植樹いたしました。今後もこの植樹を継続していきます。

新幹線騒音については「住宅集合地域に準ずる地域」に引き続き、「住宅立地地域」における75dB対策に取り組めます。新たに開業した長野新幹線においても騒音75dB以下を達成しています。また、新幹線や在来線に新しく投入する車両については騒音抑制のため様々な配慮をしています。

〔インターモーダルの推進〕

増加する運輸部門のエネルギー消費、二酸化炭素排出を削減するため、鉄道の特性を活かしつつ交通システム全体のなかで環境負荷を低減する交通間の連携（インターモーダル）を検討・推進していきます。

〔啓発・協力・広報活動〕

地球市民の一員として、環境問題の重要性を情報発信するため、社員教育のみならず、グループ企業間、そして社外、国際的な協力を行ってきました。

こうした当社の環境への取り組みに対して、平成9年4月には第6回地球環境大賞（日本工業新聞社主催、WWF Japan特別協力）、同じく6月にはこの「JR東日本の環境問題に対する取り組み」が第1回環境アクションプラン大賞（社団法人 全国環境保全推進連合会主催、環境庁・毎日新聞社後援）をそれぞれ受賞いたしました。

これらの実績と、より具体的な取り組みについて、この冊子では詳細に紹介いたします。JR東日本では、この実施状況を踏まえ、施策の効果等を検証したうえで、さらに環境への負担を減らすべく、環境目標の達成に向け取り組みを続けてまいります。